

成分名	リノール酸イソプロピル
英文名	Isopropyl Linoleate
CAS No.	22882-95-7
収載公定書	薬添規 外原規
A TOXNET DATABASE へのリンク	https://chem.nlm.nih.gov/chemidplus/rn/22882-95-7

投与経路	用途
一般外用剤	基剤、可塑剤

1. 単回投与毒性

単回経口投与毒性

10.0%リノール酸イソプロピル含有コーンオイル 2.0-64.0ml/kg を 6 用量、5 例/用量にて絶食雌雄アルビノラット(体重 200-300g)に経口投与し、2 週間観察して単回経口投与毒性試験を行った。4.0ml/kg 以下で無症状、8ml/kg で粗毛、16.0mg/kg で軽度下痢と粗毛、32.0、64.0ml/kg で湿性油性毛、鼻出血、重症下痢が認められたが、死亡例はなかった。

1)(Bio-toxicology Laboratories, Inc.,1975)

以下については該当文献なし

2. 反復投与毒性

3. 遺伝毒性

4. 癌原性

5. 生殖発生毒性

6. 局所刺激性

6-1 皮膚刺激性

① 無希釈および 10.0%のリノール酸イソプロピル水性懸濁液の皮膚刺激性が 6 例の雄性ニュージーランド系アルビノウサギ(体重 2.5-3.5kg)で試験された。被検液 0.5ml を側腹左方(無処置)、右方(擦過)皮膚に 72 時間閉塞パッチし、評点 0-4 にて評価した。第 1、2(高純度リノール酸イソプロピル使用)試験で、水性懸濁液ではそれぞれ皮膚刺激性なし(primary irritation index: PII=0.21)、軽度刺激性(PII=0.96)、無希釈ではともに軽度刺激性(PII=1.13、1.00)であった。¹⁾ (Guillot et al., 1980)

② 10.0%リノール酸イソプロピル含有コーンオイル 0.5ml を 6 例(雄性 3、雌性 3)のアルビノウサギの剃毛無処置、擦過皮膚に 24 時間パッチ、不動化处理し、72 時間まで評価した。皮膚刺激性は認められなかった。¹⁾(Bio-toxicology Laboratories, Inc.,1975)

③ 無希釈および 10.0%のリノール酸イソプロピル水性懸濁液を 3 例の雄性ニュージーランド系ア

ルビノウサギ(体重 2.5-3.5kg) の側腹右方および左方(剃毛)皮膚に毎日適用し、5 日/週で 8 週反復した。肉眼所見を評点 0-4 で評価するとともに、顕微鏡観察を行った。第 1、2(高純度リノール酸イソプロピル使用)試験で、水性懸濁液の最大皮膚刺激性指数(maximum irritation index:IIMM)はそれぞれ 1.66、1.00 にて刺激性は弱く、無希釈ではそれぞれ刺激性は強い(IIMM=3.00、5 週後試験中断)、中等度の刺激性(IIMM=2.66)であった。¹⁾ (Guillot et al., 1981)

6-2 眼刺激性

① 無希釈および 10.0%のリノール酸イソプロピル水性懸濁液の眼刺激性が 6 例/濃度の雄性ニュージーランド系アルビノウサギで試験された。被検液 0.1ml を片側の眼の結膜嚢に適用して無洗浄とし、非処置眼を対照とした。7 日後までドレーズ評点 1-110 にて評価し、両被検液とも軽度刺激性とされた。¹⁾ (Guillot et al., 1980)

② 10.0%リノール酸イソプロピル含有コーンオイル 0.1ml を 6.2.1 と同様に 6 例のアルビノウサギ結膜嚢に適用して 7 日後まで評価した試験では眼刺激性は認められなかった。¹⁾ (Bio-toxicology Laboratories, Inc., 1975)

7. その他の毒性

該当文献なし

8. ヒトにおける知見

該当文献なし

引用文献

1) Final report on the safety assessment of isopropyl linoleate. J. Am. Coll. Toxicol. 1992; 1: 51-56